

九州女子大学 家政学部 栄養学科

令和3年度一般推薦選抜等 小論文試験の配点と解答

【小論文】

栄養学科は、管理栄養士の養成課程であり理系の学科である。

推薦入学選考の小論文試験においては、図表などのデータを正確に読み取り、設問に対して正確な解答を求める。さらに、設問に対して将来管理栄養士になりたい自分の考えを答える事と、合わせて文章力や語彙力も問う形式になっている。

1

《出題のねらい》

平成30年度の「国民健康・栄養調査」栄養バランスのとれた食事に関する結果を示し、図1 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度(20歳以上、性・年齢階級別)、表1 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度が週5日以下と回答した者における主食・主菜・副菜の3つを組み合わせることがバランスのよい食事になることを知っている割合(20歳以上、性・年齢階級別)、図2 主食・主菜・副菜の3つを組み合わせる食べることができない理由(20歳以上、性別)の各々の図表の意味を理解し、その傾向を読み取ることができているか否かを判定した。

問1 上記の図表を見て、下記の空欄 ～ に当てはまる最も適切な数値または語句を記入しなさい。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べることが、「ほとんど毎日」と回答した者の割合は、男性 %、女性 %であった。年代別にみると男女ともに若い世代ほどその割合が 傾向にある。主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度が週5日以下と回答した者のうち、主食・主菜・副菜の3つを組み合わせるとバランスの良い食事になることを知っている者の割合は、男性 %、女性 %であった。また、知っている者のうち、主食・主菜・副菜の3つを組み合わせる食べることができない理由は、男女ともに の割合が最も高かった。

問1 配点30点(5点×6問)

1.	45.4	2.	49.0	3.	低い
4.	88.7	5.	95.5	6.	手間がかかる

※数字、小数点が解答の通りであること

問2 各々の図表 図1 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度(20歳以上、性・年齢階級別), 表1 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度が週5日以下と回答した者における主食・主菜・副菜の3つを組み合わせたことがバランスのよい食事になることを知っている割合(20歳以上、性・年齢階級別), 図2 主食・主菜・副菜の3つを組み合わせて食べることができない理由(20歳以上、性別)について, その傾向を的確に読み取れているかを見る。
また、問1の内容を含まず各々100字以内で述べる。

問2 配点45点 (15点×3問)

※誤字、脱字、句読点、文章表現の間違ひは、1箇所につき、マイナス1点

※字数が9割(90字)以下または字数オーバーは、マイナス3点

※【 】と同じ内容が含まれている場合は、マイナス5点

図1 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度(20歳以上、性・年齢階級別)

《注意事項》

【主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べることが、「ほとんど毎日」と回答した者の割合は、男性45.4%、女性49.0%であった。年代別にみると男女ともに若い世代ほどその割合が低い傾向にある。】これを含まないこと。

《模範解答例》以下を組み合わせて100字以内に述べる。

- ①「ほとんどない」が最も高いのは、男女とも20～29歳代であり、女性の方が男性より少し高い。(その逆の表現も可)
- ②3つを組み合わせた食事を1日2回以上食べることが「ほとんどない」と「週に2～3回」を合わせると、男性は20～49歳の若い年代では全て40%を超えているが、女性は20～29歳代のみであった。(89字)(その逆の表現も可)
- ③男性の70歳以上、女性の60歳以上は、3つを組み合わせて食べているが「ほとんど毎日」「週に4～5日」70%以上である。(その逆の表現も可)
- ④全体に見ると、3つを組み合わせて食べているが「ほとんどない」と「週に2～3回」の様にバランスの悪い食事をしているのは女性より男性の方が多い。

《解説》

男女を比較すると、30歳代を除き女性より男性の方が「ほとんど毎日」は低い。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度が「ほとんどない」においても若い世代ほどその割合は高く男女の比較では、20歳代を除き女性より男性が高い。

「ほとんどない」「週に2～3日」合わせて比較すると男性の20～60歳代におい

て約4割を示すが、同年代を比較すると女性は20歳代を除き男性より低い値を示している。主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が摂取できていない。

表1 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度が週5日以下と回答した者における主食・主菜・副菜の3つを組み合わせたことがバランスのよい食事になることを知っている割合(20歳以上、性・年齢階級別)

《 注 意 事 項 》

表1 【主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度が週5日以下と回答した者のうち、主食・主菜・副菜の3つを組み合わせたるとバランスの良い食事になることを知っている者の割合は、男性 88.7%、女性 95.5%であった。】これを含めない事。

《 模 範 解 答 例 》

- ① 全体では、3つを組み合わせた食事をとっているのが「ほとんどない」「週に2～3回」「週に4～5日」と増える程「3つを組み合わせたるとバランスの良い食事になることを知っている者」の割合が高くなっている。99字(=3つを組み合わせて食べていない者ほど知らない)
- ② 男女を比較すると「3つを組み合わせたるとバランスの良い食事になることを知っている者」の割合は、女性の方がどの年代も高い。また、実際に3つ組み合わせた食事をとることが少ない者でも知っている割合は高い。99字

《 解 説 》

男女ともどの年齢層も、実際にバランスの良い食事を行っていると答えた人ほど「知っている」割合が高い。(実際にバランスの良い食事をしていない人ほど、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事がバランスの良い食事とは思っていない)

図2 主食・主菜・副菜の3つを組み合わせて食べることができない理由(20歳以上、性別)

《 模 範 解 答 例 》

3つを組み合わせて食べることができない理由は男女とも1位が「手間がかかる」2位が「時間がない」と時間に関して余裕がないのが4～5割を占め、男女比では女性の方が時間的な余裕がない者の割合が高い。95字

問3 管理栄養士をめざすあなたが「バランスの良い食事」に近づけるために、具体的にどのような対策や工夫を行えば良いかについて、図表の結果を含めあなたの考えを400字以内で述べなさい。

問3 配点25点

《 出題のねらい 》

問1、および問2の結果を考察し、どのような対策や工夫をすれば、バランスの良い食事とることができるかの自分の考えを的確に説明できるか否かを判定した。

年齢別、男女別の対策や工夫、実際に行動可能な内容であるか。

《 模範解答例 》

主食・主菜・副菜の3つを組み合わせた食事がバランスが良いと知っている人程、実際に3つの組み合わせの食事の実施ができている。また、全体の8割の人は知ってはいるが、時間的な余裕がないことで実施が出来ていなかった。その工夫として、週末などの時間のある時の作り置き、総菜の購入（中食）外食の際も「定食」などのバランスの良いメニューを選択する工夫が必要である。